

※ 評価の観点による実現状況の達成度判定基準は、A～Dの4段階の基準で評価したものである。
〔a…よくあてはまる、b…あてはまる、c…あてはまらない、d…まったくあてはまらない〕

※ 判定は、学期の業務遂行状況を教職員による学校評価アンケートや生徒・保護者アンケートの結果を

六 判定は、学期の収穫による学級評価ノン、トト王健一、休業者ノン、トの結果を用いての4段階の判定基準で評価したものである。また、その分析や収穫結果、学級休業者評価について記載した。

「よくあてはまる」で評価

- A…とても良好
- B…良好(目標)
- C…検討が必要
- D…再検討・改善

2 生きる力につながる学力をつける	自ら進んで学習する生徒の育成「知」	【1.達成された姿(ゴール)】 ・家で勉強している生徒		⑧生徒	学んだことをふり返したり、次の授業の見通し勉強を家でしている。	aのみ A-60% B-50% C-40%	12(74)	23(78)	19(76)	○7月評価(Check) 【評価・分析】 「よくあてはまる」「あてはまる」と答えた生徒は78%だった。また、「よくあてはまる」と答えた生徒も23%であり、4月から11%の増加にとどまり、目標には到達しなかった。			小学校も中学年くらいからチャットで交流するようになり、それが学習時間を削いでいる。特に男子にある。鳥越の子ども達は言ったことはちゃんとやる。でもこれで大人になら足りない。言われたことだけやるんじゃなくて、自分でやりたいことを見つけたり、自分で計画立ててできるようにしなければならない。部活があるから勉強できないではなくて、その時間をどうやりくりするかが大事である。時間をやりくりしたり、自分で決めたことをやる力が弱い。授業の中でもみんなが同じことをやるのではなくて、自分で決めて勉強する。眞面目で素直な子ども達が、言われたことだけするのではなくて、自分でやれる子にしてやらなければならない。中学校に行ったらすぐに家庭学習ができないというのは、言われたことだけやってきた小学校時代を過ごしてきたら、どうやっていいかわからない。じゃあ、小学校で何ができるのか。どう時間を使っていかを考えられるようにしたい。コミュニティセンターでも子ども向けの行事を企画しても子どもが忙しくて、行事にならない。学校での生活だけではなくて、それ以外の習い事とかある。時間の使い方とか、自分で何をするようになればいいのに。子どもは忙しいのかな。					
		【2.具体的な取組(Plan)】 ・ガリガリノート（家庭学習ノート）の書き方の指導、展示 ・ガリガリノート一冊終了ごとに段位認定 ・テスト前にガリガリタイム（全校生徒で学習する時間）を実施 ・テスト前にガリ勉タイム（自主学習時間）の確保									【評価を終えて】 家庭学習については、「よくあてはまる」が4%減少し、目標を達成することができなかつた。「あてはまる」まで見ても2%減少した。内訳を見てみると、3年生では「あてはまらない」が大きく減ったが、逆に2年生で増えた。一方、保護者においては3%増加した。教職員の方は7月とまったく変わらなかつた。期末テストに向けて、生徒会で「学習RunRun」と銘打った家庭学習調査を行い、各学年の家庭学習の平均時間を掲示したり、呼びかけを行うなどしてきましたこともあり、家庭学習への意識づけを生徒自身で取り組んだことは良いことであり、今後も機会を見て行えればと思う。							
		【求める生徒の姿】 ・復習や次の日の予習に取り組む生徒			【具体的な取組】 ・一人一人の学習到達状況を確認し、さらに意欲を引き出す取組													
3 豊かな心と健やかな体を育てる	互いの良さを認め合う生徒の育成「徳」	【1.達成された姿(ゴール)】 ・互いの良い行いや長所を見つけることができる生徒		⑪生徒	友達の良い行いや長所を見つけることができる。	aのみ A-65% B-50% C-35%	33(93)	49(98)	38(96)	○7月評価(Check) 【評価・分析】 「友達の良い行いや長所を見つけることができる。」の項目では、「よくあてはまる」と答えた生徒の割合が4月から16%増加したが目標には達成しなかった。「あてはまる」まで見ると良好である。「友達に対して思いやりの心で行動している」は4月から4%増加して目標を達成することができた。			(後期) 生徒たちは控え目であるが、住んでいる環境が影響を与えているのかなと思う。このような子ども達が高校に進学したら心配である。高1ギャップにならないようにしてあてなければならない。					
		【2.具体的な取組み(Plan)】 ・各学級に道徳コーナーを設置 ・道徳掲示の充実 ・生徒会主催で「とりごえもんの羽」（友達の良い行いを伝え合うカード）の取組 ・各学級で行事の後などに、感謝の気持や良い行動を伝え合う									【評価を終えて】 「友達の良い行いや長所を見つけることができる」の項目では「よくあてはまる」が7月から11%減少した。「友達に対して、思いやりの心で行動している」の項目でも「あてはまる」まで含めて見ると2%減少だが、「よくあてはまる」のみを見ると、7月の4.3%から1.7%減少した結果となった。以前まで毎日のように取り組んでいた生徒同士が良いところを見つけて名前やその行為を書く「とりごえもんの羽」の活動を少し抑えたことが結果につながったように思える。また、球技大会に向けて勝ちたいという気持ちが強くなり、互いのミスを責めるようになったことも原因と考えられる。他者に責任転換するような言動がかえってマイナスを生む事や一人一人の良さを引き出すような声かけが大きな効果につながることを指導していかたい。そして、道徳教育にも力を入れ、他者への思いやりが自然と生まれるようにしていく。							
		【求める生徒の姿】 ・互いの良い行いや長所を見つけることができる生徒			【具体的な取組】 ・毎日の生活を通して教師の働きかけの推進 ・他者に対する思いやりの心を育てるための道徳教育の取組													
		【1.達成された姿(ゴール)】 ・きちんとあいさつしている生徒 ・自律清掃で自分の心を磨いている生徒		⑫生徒	友達に対して、思いやりの心で行動している。	a+b A-95% B-85% C-75%	92%	96%	94%	○7月評価(Check) 【評価・分析】 生徒同士で良いところを見つけて発表し合う「とりごえもんの羽」に加えて「みんなで咲かせよう ありがとうの花」の取組もあり、生徒の意識が高くなっていることが見て取れる。こうした活動を継続することによって、生徒の自己有用感を育て、他者への思いやりが自然と生まれるように進めていきたい。一報、教師の「よくあてはまる」が38%であり、教師の働きかけが原因であると考える。			(後期) 生徒たちは控え目であるが、住んでいる環境が影響を与えているのかなと思う。このような子ども達が高校に進学したら心配である。高1ギャップにならないようにしてあてなければならない。					
		【2.具体的な取組(Plan)】 ・生徒会執行部を中心としたあいさつ運動の実施 ・全校集会での自律清掃に関する共通理解 ・学級日誌への振り返りの記入と記入内容の全体への還元 ・生徒会委員会による横断的運動の立案実行									【評価を終えて】 「友達の良い行いや長所を見つけることができる」の項目では「よくあてはまる」が7月から11%減少した。「友達に対して、思いやりの心で行動している」の項目でも「あてはまる」まで含めて見ると2%減少だが、「よくあてはまる」のみを見ると、7月の4.3%から1.7%減少した結果となった。以前まで毎日のように取り組んでいた生徒同士が良いところを見つけて名前やその行為を書く「とりごえもんの羽」の活動を少し抑えたことが結果につながったように思える。また、球技大会に向けて勝ちたいという気持ちが強くなり、互いのミスを責めるようになったことも原因と考えられる。他者に責任転換するような言動がかえってマイナスを生む事や一人一人の良さを引き出すような声かけが大きな効果につながることを指導していかたい。そして、道徳教育にも力を入れ、他者への思いやりが自然と生まれるようにしていく。							
		【求める生徒の姿】 ・互いの良い行いや長所を見つけることができる生徒			【具体的な取組】 ・毎日の生活を通して教師の働きかけの推進 ・他者に対する思いやりの心を育てるための道徳教育の取組													
3 豊かな心と健やかな体を育てる	心と体を鍛える生徒の育成「体」	【1.達成された姿(ゴール)】 ・きちんとあいさつしている生徒 ・自律清掃で自分の心を磨いている生徒		⑬生徒	どこでも誰に対しても自分からあいさつしている。	aのみ A-65% B-50% C-35%	38(96)	42(95)	43(100)	○7月評価(Check) 【評価・分析】 「あいさつ」の項目については「あてはまる」まで見ると95%と概ね良好であるが、「よくあてはまる」も42%と4月から4%上がったが目標を達成することができなかつた。保護者の評価も6%下がっており、教師の働きかけも4月から変わらなかつた。自律清掃に関する項目については4月の調査から4%減少した結果となった。			(前期) 掃除の後半は汚れているところ見つけて掃除をすることになっているが、そんなのはあまり得意ではない。決まったことだけして終わつたではなくて、まだなかなかいかないという積み重ねができたらしい。悪かったところは分析して対応してもらえばいい。					
		【2.具体的な取組(Plan)】 ・生徒会執行部を中心としたあいさつ運動の実施 ・全校集会での自律清掃に関する共通理解 ・学級日誌への振り返りの記入と記入内容の全体への還元 ・生徒会委員会による横断的運動の立案実行									【評価を終えて】 「あいさつ」の項目については「あてはまる」まで見れば100%と良好な結果であった。生徒会での挨拶運動の取組であつたり、バス通学での乗車マナーであつたりと挨拶を意識した生活ができていたと思われる。今後も自信を持って「よくあてはまる」と回答できるように良い行いに対して価値付けをしていきたい。							
		【求める生徒の姿】 ・大きな声、丁寧な所作で挨拶している生徒 ・自律清掃で自分の心を磨いている生徒			【具体的な取組】 ・生徒会執行部を中心とした挨拶運動の実施 ・生徒自身で自律清掃の意義について考える機会の設定 ・生徒のやる気を引き出す教師のサポートの推進													
		【1.達成された姿(ゴール)】 ・地域に誇りを持つ生徒		⑭生徒	地域に关心を持ち、その良さを理解している。	aのみ A-70% B-60% C-50%	23(93)	45(87)	28(83)	○7月評価(Check) 【評価・分析】 「地域に关心を持ち、その良さを理解している」の項目では「よくあてはまる」と答えた割合は12%上がったものの、「あてはまる」まで含めた割合は6%下がつた。「地域に貢献したいと考えている」生徒の割合は85%にとどまつたが、4月から4%増加した。			(後期) 河内の子ども達にしたら鳥越地区に建っている学校にくるので、よそ者という意識があるのではないか。地域学習をするにしても鳥越地区のほうがやりやすい。小学校の間に子ども同士の壁を柔らかくしたい。鳥越小と河内小が交わる機会を増やしていくけれどと思う。河内の子ども達が引け目を感じて入学しないようにしてあげなければならない。河内の子が鳥越中にくるときのどきどき感があると思う。同じ気持ちで中学校生活をスタートできたらいいと思う。地域としても河内の子を受け入れてあげるといふ気持ちがでないようにならなければならない。大人も引きつけなければならない。					
		【2.具体的な取組み(Plan)】 ○生徒に地域の良さを知らせ、地域に参画できる生徒の育成 ・白山麓の良さを知り、ジオパークの推進 ・道徳の授業の工夫（地域教材の活用、地域GTの活用） ・運動会、文化祭で地域の文化に触れる ・地域の行事への積極的参加									【評価を終えて】 「地域に关心を持ち、その良さを理解している」の項目では「よくあてはまる」が17%減少し、目標を達成することができなかつた。特に2割の2年生が「あてはまる」と答えるようになった。また、「地域に貢献したいと考えている」の項目においても7月から7%減少した。特に3年生において「あてはまらない」と回答した生徒が増えた。高校体験入学などで行動範囲が広がつたことで意識が変わってきたものと考えられる。今年度は地域とのコラボで文化発表会を行うなど、その他にも地域の方々を活用した学習活動を進めてきた。今後も総合的な学習を中心とした地域と連携した活動を行っていきたい。							
		【求める生徒像】 ・地域に誇りを持つ生徒			【具体的な取組】 ・地域教材を発掘し、地域の方々との連携によるふるさと教育の推進													